

日経コンピュータ

NIKKEI COMPUTER

臨時増刊号

October 15 2001

ブロードバンド最前線

巨大な新市場が誕生、企業利用の期待も広がる



INTERVIEW

米マサチューセッツ工科大学
メディアラボ 客員教授

西 和彦氏

真のブレイクスルーはまだ先 DVD以上の動画品質が不可欠

—最近の日本のブロードバンドをめぐる動きを、どのように見えていますか。

まず第一に、ブロードバンドの定義が間違っていることが問題だと思って

います。ブロードバンドとは何かというと、一般には「高速のインターネット」と見られていますが、そうではありません。「高品質のオーディオとビデ

オのストリーミングができるインターネット」。これが私の言う本当のブロードバンドです。

6Mビット/秒以上が離陸の条件

動画伝送の品質に関しては、国際標準の符号化方式「MPEG-2」の6Mビット/秒が一つのしきい値になります。これはDVDビデオと同じクオリティです。つまり、DVD以上の動画を家庭で見られるようにならないと駄目。そうでなければ、ブロードバンドのビジネスはテイクオフしません。1.5Mビット/秒でブロードバンドなどと言われていますが、その程度ではブロードバンドではないと思います。

—DVDのクオリティが必要だという理由は何ですか。

今のままではインターネットで映画を見るより、DVDで見たほうが絵がきれいだからです。DVD一つ買って2000円、CD一つ買って1000円。それをオンラインで買うには、やはりクオリティがもっと良くなければならない。しかも、ファイルをダウンロードして見るのではなく、ボタン一つ押せばすぐに見られるようにしなければなりません。

ビデオの場合、DVDとS-VHS、



写真撮影：寺尾 豊

西 和彦(にし かずひこ)氏

1956年2月神戸市生まれ。1975年早稲田大学理工学部入学。1977年アスキー出版(現アスキー)設立、取締役企画部長に就任。その後、米マイクロソフト社ボードメンバー兼新技術担当副社長、アスキー代表取締役社長などを経て、2000年米マサチューセッツ工科大学メディアラボ客員教授に就任。このほかアスキー特別顧問、須磨学園高等学校校長など多数の役職を兼務。博士(情報学)。著書に『ITの未来を読む365冊+α』(日経BP社)などがある。

VHSの三つの品質があります。それぞれ必要な帯域は6M, 3M, 1.5Mビット/秒です。今後は6Mビット/秒のDVDクオリティ以上が不可欠であり、24Mビット/秒のHDTV(ハイ・ディフィニション・テレビ)が望ましいでしょう。

—DVD以上のクオリティになっても、家庭で見る画面上でその差は分かるものですか。

十分に分かります。高画質のものを毎日見ていたら、以前のものは「汚い絵だなあ」と思うはずです。まあ、でも、これは人それぞれの感性の世界ですから、一概には言えませんが…。

—ブロードバンドのビジネスやインフラに携わっている人は、今後6Mビット/秒というラインをしっかりと考えていくべきだということですね。

そうです。6Mビット/秒のストリーミングができて初めて、ブレイクスルーが起こります。それまでは駄目でしょう。「そのスピードでいったい何が売れるの?」という話です。

もう一つ忘れてはならないのは、ブロードバンドのサービスにどのような機器をつなぐかです。例えば、いまソニーなどが製品化しているハードディスク・レコーダ。これは今後、非常に重要になってきます。現在は通常のテレビ放送を録画するために使われていますが、高速のインターネットとつながるようになれば、さまざまな動画のコンテンツを受信したり録画できるよ

うになるからです。

そのほかハードディスクを内蔵したオーディオ・プレイヤやゲーム機なども、インターネットへの接続機器として考えられます。要するに、インターネットにつながるのはパソコンだけではないということです。そのためには、テレビ番組などのオンライン配信が必要になりますが、まだ本格的なサービスが提供されていないことが問題です。

—それは「鶏が先か、卵が先か」と同じように、利用者が少ないからですか。

一番大きいのは、このようなビジョンをだれが持っているのかということです。現状ではまだ、明確なビジョンを持っている会社は少ない。だから、ビジョンをちゃんと打ち出したところが儲けをするでしょう。

ブレイクスルーには5年以上かかる

—では、いつごろブレイクスルーが起これると思いますか。

5年から10年はかかるでしょう。方向性は変わりませんが、インフラの組み直しになるので、やはりそれくらいかかってしまうのでは。

—一番大切なことは「時間がかかる」ので、じっくり取り組むということですね。ある日突然、「今日からブロードバンド」というのはあり得ません。それと、インターネットだけがすべてではない、ということです。当面は放送と通信とインターネットの3本立てで行く。これが第一段階。次の第二段階

は放送とインターネットの2本立てです。インターネットが通信を吸収し、通信はインターネットの上で行う。そして、第三段階で通信も放送もインターネットの上で行うようになる。こうして本当のブロードバンド時代が来るのです。

—その場合のインフラは、やはり光ファイバになるのでしょうか。

そうかもしれませんね。ADSL(非対称デジタル加入者線)は伝送技術が6Mビット/秒以下のままだったら、最後にはFTTH(ファイバ・ツー・ザ・ホーム)に取って代わられるでしょう。しかし、ADSLでも高速なものが出てきていますから、それをプッシュしていけば長期的にもADSLで十分です。—ADSLと比べてCATVインターネットというのはどうですか。

サービスが提供されている地域内では、ADSLよりもCATVのほうが伸びるでしょう。下りのスピードが速いからです。いま全国津々浦々に、ISP(インターネット・サービス・プロバイダ)があります。その中で特定の地域だけADSLが提供されています。ADSLの提供地域の中で、CATVインターネットのサービスが提供されているところでは、CATVが利用者を獲得していくでしょう。そのほか、NTTドコモの第3世代携帯電話「FOMA」などの高速無線インターネットも有望だと思っています。

(聞き手=本誌編集長、古沢 美行)●